

# 八郷地区統合小学校 建設基本構想

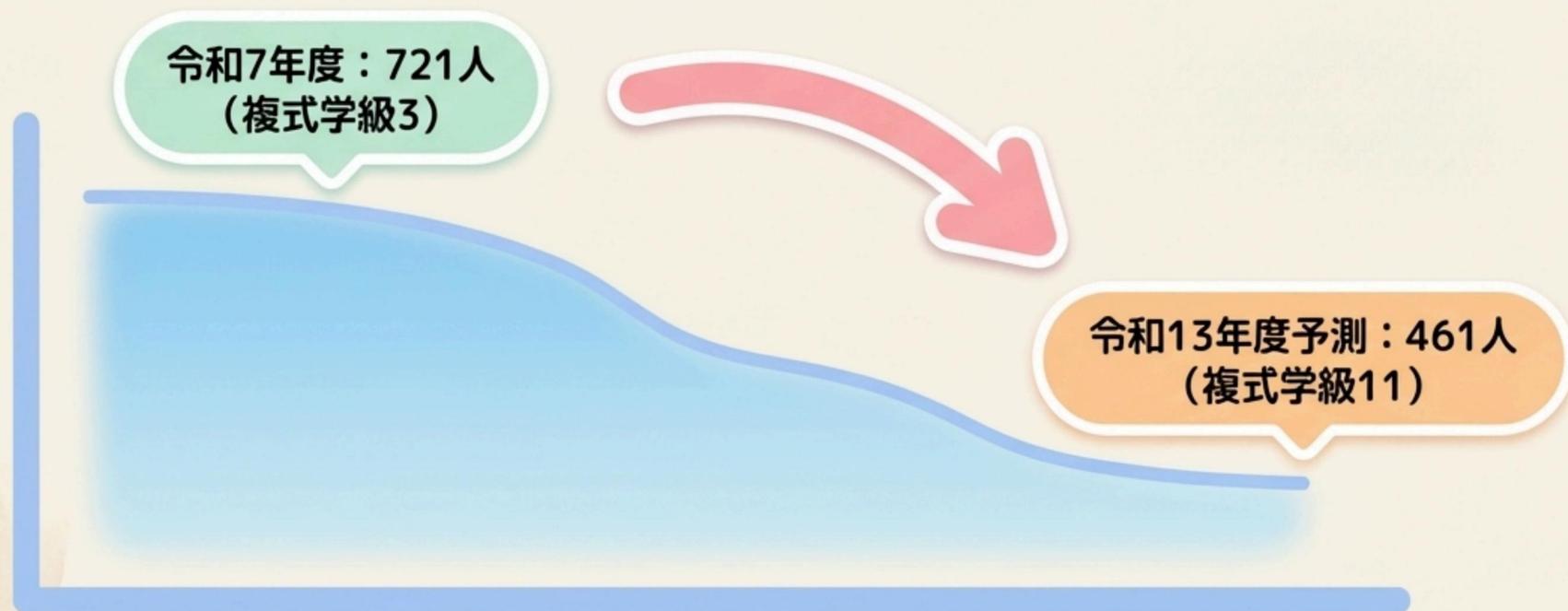
地域の未来を創る、新しい学び舎のカタチ



石岡市教育委員会

## なぜ統合を進めるのか？ ～児童数の減少～

八郷地区では子どもの数が予測を上回るスピードで減少しています。



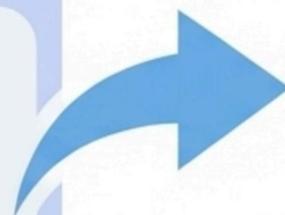
一定規模の教育環境（クラス替えや多様な意見に触れる機会）を維持することが難しくなってきています。

## 歴史ある校舎の老朽化と、新しい時代の教育ニーズ

対象となる8校は明治時代に創立された歴史と伝統のある素晴らしい学校ですが、多くの施設が築40年を超えています。



築40年を超える施設の老朽化



1人1台端末を活用した  
個別最適化された学びの実現



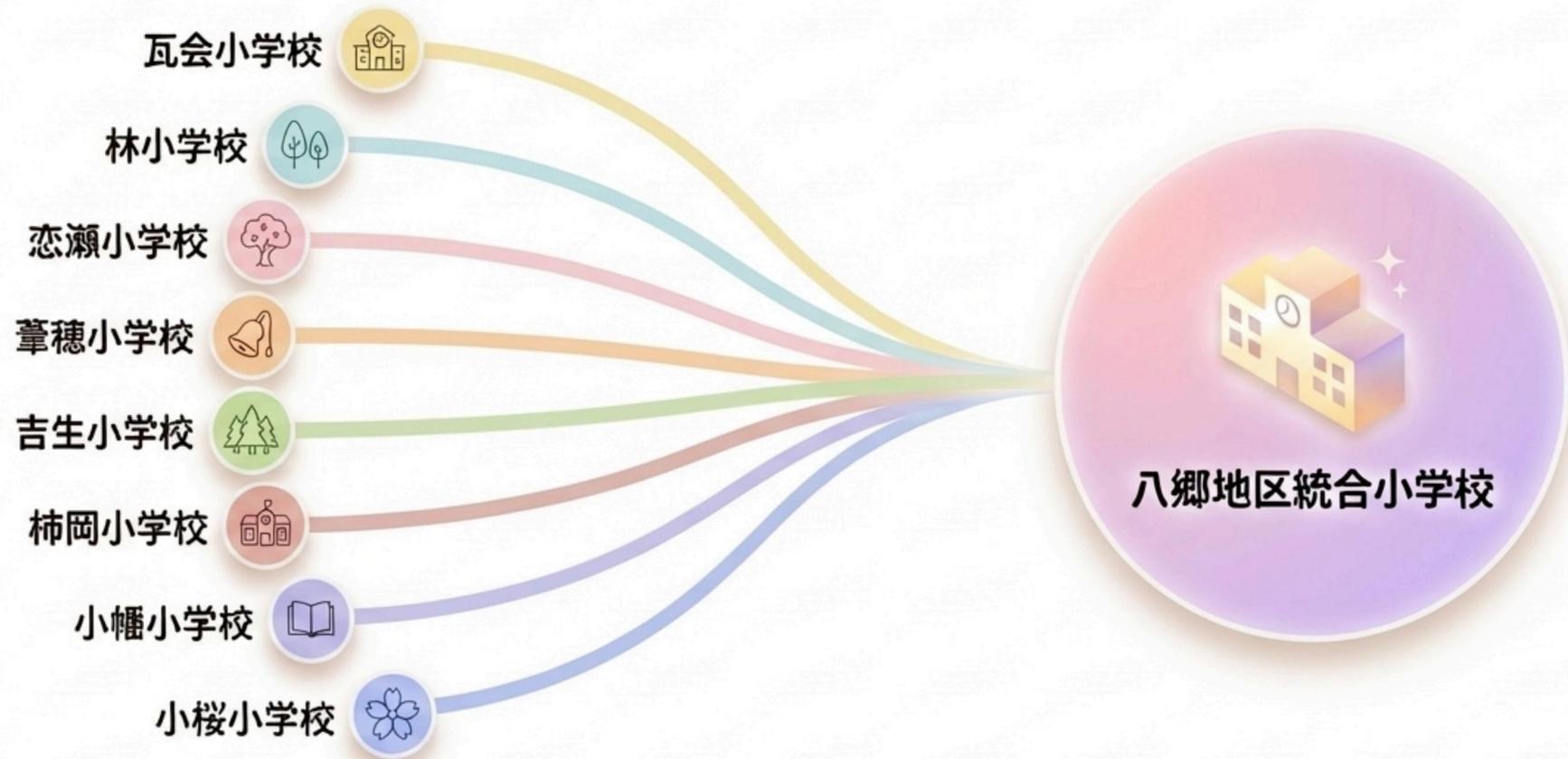
すべての子どもに優しい  
バリアフリー環境



地球温暖化対策・SDGsへの対応  
(ゼロカーボンシティの実現)

子どもたちがよりよい環境下で学びを深めていけるよう、  
施設のレベルを根本から底上げする時期に来ています。

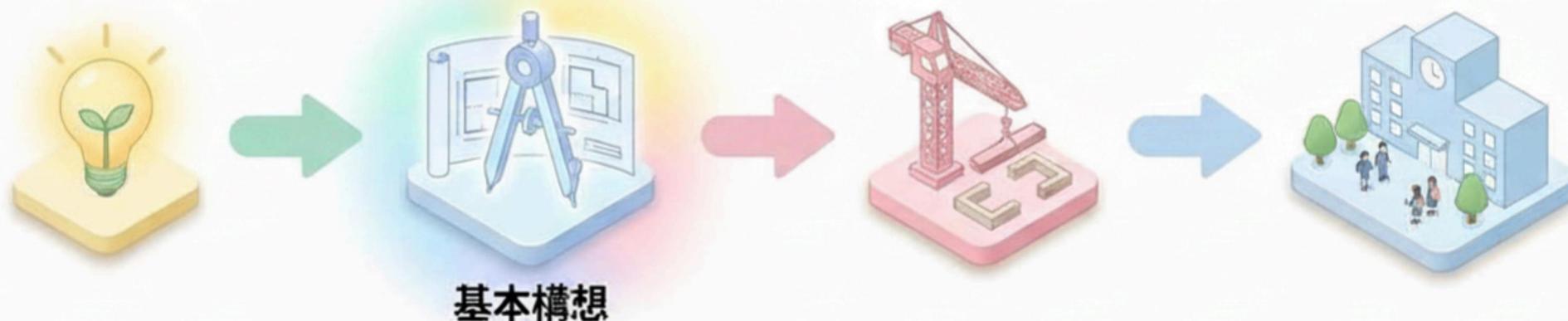
## 8つの歴史と想いを、ひとつの大きな未来へ



これまでの地域の絆を受け継ぎ、新しい時代を生きる子どもたちのための「ひとつの学び舎」を創り上げます。

# 「基本構想」とは何か？

実際の「設計・建設」に入る前に、新しい学校の羅針盤となる基本的な考え方をまとめたものです。



1. 建設に向けた学びの空間としての考え方



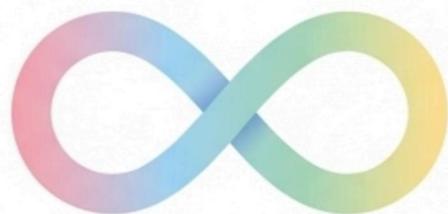
2. 校舎等の配置計画



3. 必要な部屋の面積や動線を踏まえた施設のあり方

この構想をもとに、誰もが納得できる「安全で快適な学校づくり」の具体的な設計図が描かれます。

＼ 新しい学校の整備スローガン ／



多様な個性が響きあい、∞の可能性をはぐくむ、  
自然と郷土に学ぶ、笑顔あふれる学校  
～美しく、たくましく、未来をつくる「つくばねの子」～

多様な個性が響きあい  
インクルーシブで誰もが  
居場所を持てる空間

∞ (無限) の可能性  
八郷の「八」を表現  
挑戦と夢を後押し

自然と郷土に学ぶ  
豊かな八郷の自然と  
ふるさと学習の継承

笑顔あふれる学校  
異学年が交流し、明日も  
行きたくなる楽しい学び舎

# 未来の学びを支える、8つの建設コンセプト



コンセプトを「空間」と「機能」へ変換し、具体的な校舎設計を行います。

## コンセプトの詳細①（学校での過ごし方）



### 【生活】

「明日また行きたい」と感じられる、居心地の良い学校づくり



### 【学び】

ICTの活用など、新しい時代の学びを支える学校づくり



### 【施設】

小中一貫教育を支え、学びのつながりが感じられる施設づくり



### 【共創】

特別支援教育の充実と、多様性を尊重し、誰もが居場所を感じられる環境づくり

## コンセプトの詳細②（地域と環境への配慮）



### 【地域】

地域の暮らしや文化、  
自然とつながる、  
いきいきと輝く学校づくり



### 【環境】

環境への配慮と、快適で長く  
使い続けられる施設づくり



### 【安全】

児童生徒が見守られていると  
感じられる、  
安全で安心な学校づくり



### 【防災】

災害時における地域の  
一時避難場所としても  
機能する施設づくり

# 9年間を見通した学びへ：八郷中学校との小中一貫校化



**「中1ギャップ」の解消:**  
小学校から中学校への環境変化による不安を和らげ、スムーズな接続を実現



**9年間の連続性:**  
カリキュラムを連続させることで、より深く、一貫した教育を提供

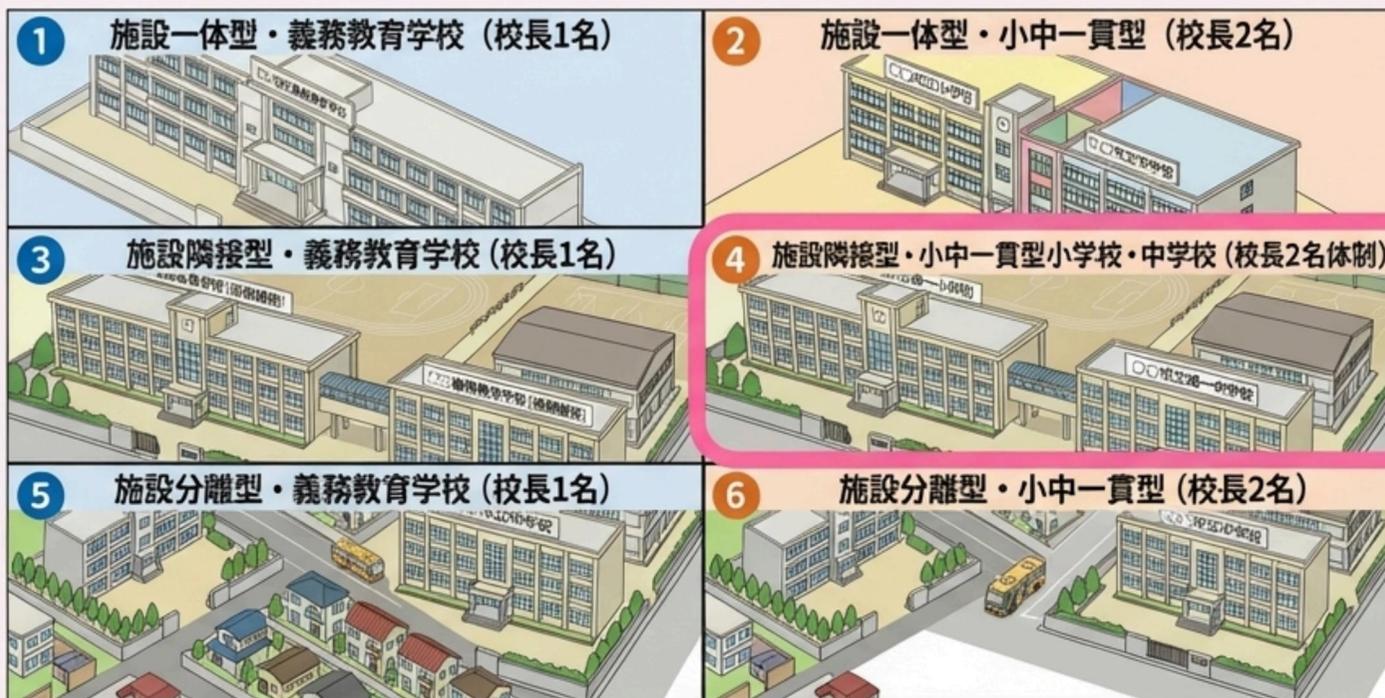


**憧れと成長:**  
中学生の高度な学びや姿勢を間近で見ること、小学生の成長意欲を刺激

単なる「小学校の統合」ではなく、**地域全体の教育環境を劇的に向上させる絶好の機会**と位置づけています。

# 小中一貫教育の形態

文部科学省が示す多様な形態の中から、本市では図の「④」の形態を採用します。



ここを採用！

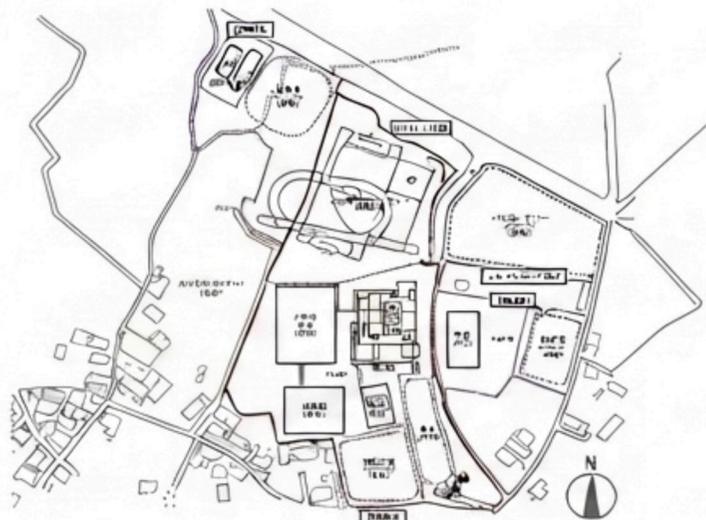
小学校と中学校の校舎が隣接する形態です。  
(校長は各校1名の2名体制)

【メリット】  
小・中学生それぞれの独立した生活リズムや発達段階を尊重しつつ、施設を共有し、自然に連携・交流できる理想的な環境を実現します。

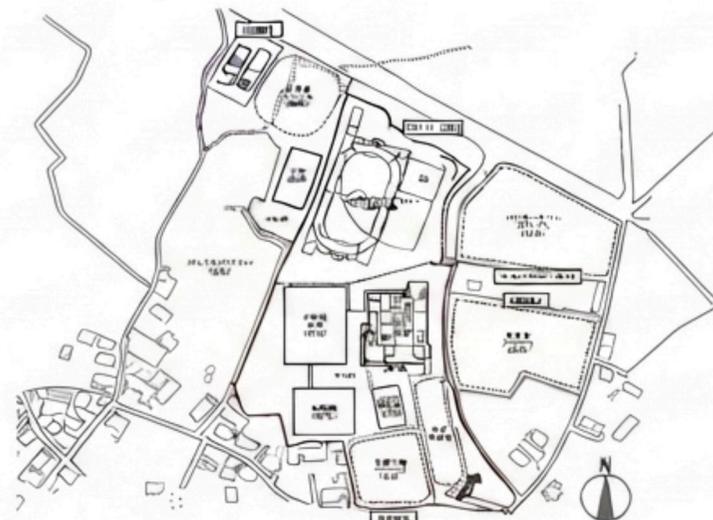
# 土地利用計画：2つの配置案の検討

隣接地（東側・西側）を新たに活用し、一体的に整備します。

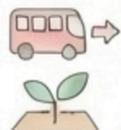
案1 (Plan 1)



案2 (Plan 2)



## 共通の特徴



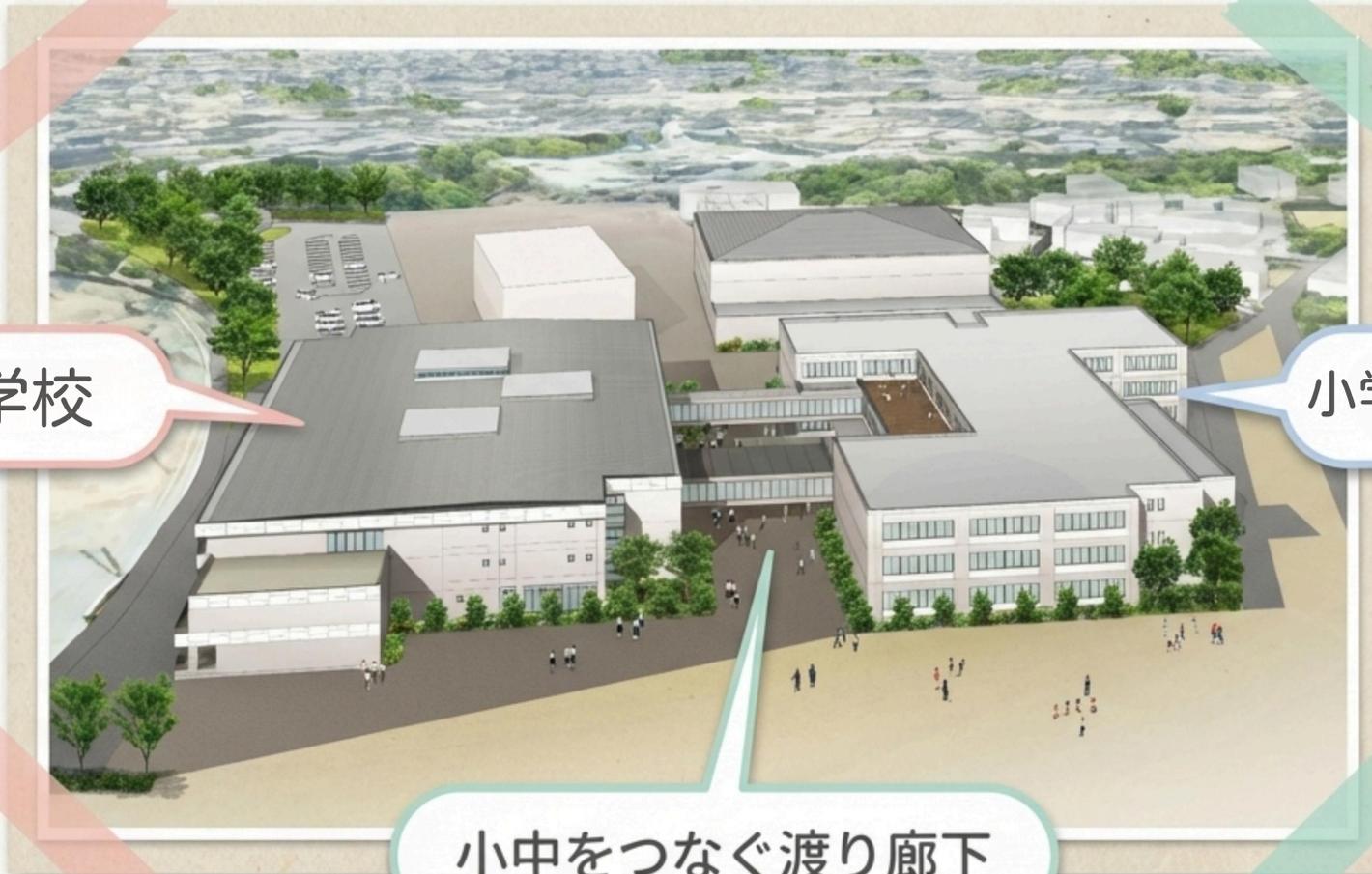
- ・安全な通学のための「新設バスロータリー」
- ・イベントを踏まえた十分な広さの駐車場を整備

# 新しい学校の完成イメージ

既存中学校

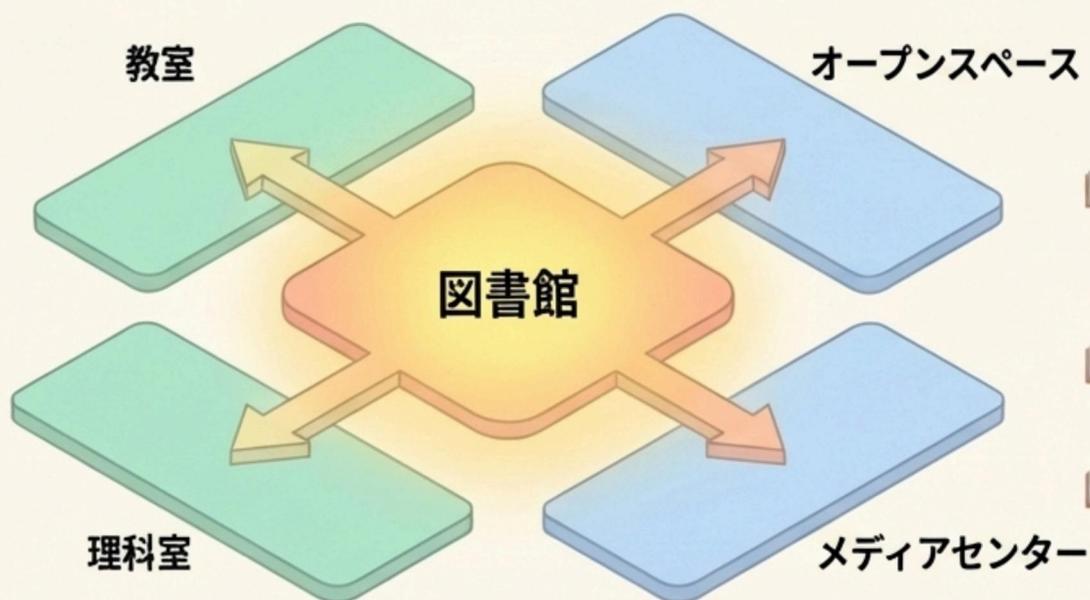
小学校（新校舎）

小中をつなぐ渡り廊下



## 学びの空間①：学校を中心とする「ラーニングコモンズ」

単なる「図書室」から、みんなで調べ、  
考え、発表する「知の拠点」へ



- 📖 • 【主体的な学習】読書だけでなく、タブレットを使ったICT学習や調べ学習がシームレスに行える設計
- 📖 • 【協働的な対話】クラスの枠を超えて、児童同士が交流し、共に学べるオープンなレイアウト
- 📖 • 【アクセスの良さ】学校のどこからでも立ち寄りやすい中心的な配置とし、日常的に「本と情報」に触れられる環境

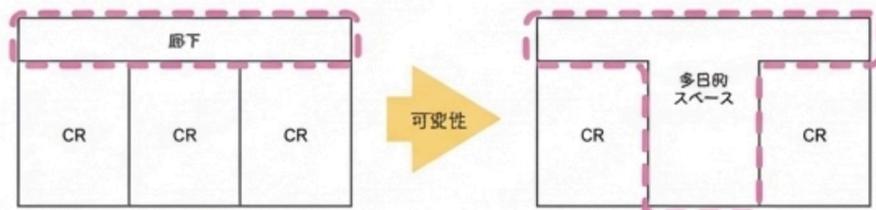
## 学びの空間②：普通教室と「DEN（居場所）」

### ゆとりある普通教室

既存中学校



本計画



- 広さ：8m×10m（八郷中学校に合わせた継続性のあるサイズ）
- 学年ごとの「多目的スペース」を確保し、フレキシブルな授業展開が可能



### 1年生に寄り添う「DEN」



- 課題：幼稚園・保育園からの環境変化による「小1プロブレム」の低減
- 解決：1年生の教室には、家庭的な雰囲気ですぐに安心できる小さな囲まれた空間「DEN（デン）」を併設学校の中に「自分の居場所」を作ります。



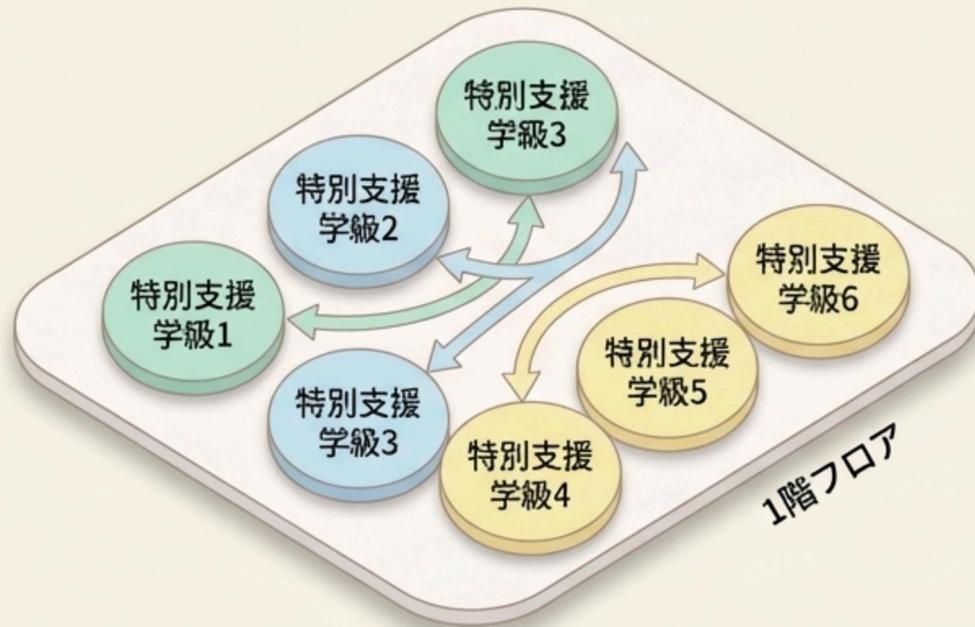
※詳細は設計業務で精査いたします

# 学びの空間③：誰もが輝ける「特別支援学級」の整備

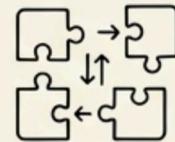
多様性を尊重し、独立性と一体感を両立するインクルーシブな環境



## 1階インクルーシブ・ゾーン



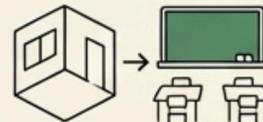
- 【ゆとりある空間】1学級最大8人に対し、普通教室の約半分の広さを確保し、落ち着いて学べる環境



- 【柔軟なクラス配置】障がいの内容や学年構成の変化に合わせてられるよう、6学級を近接して配置

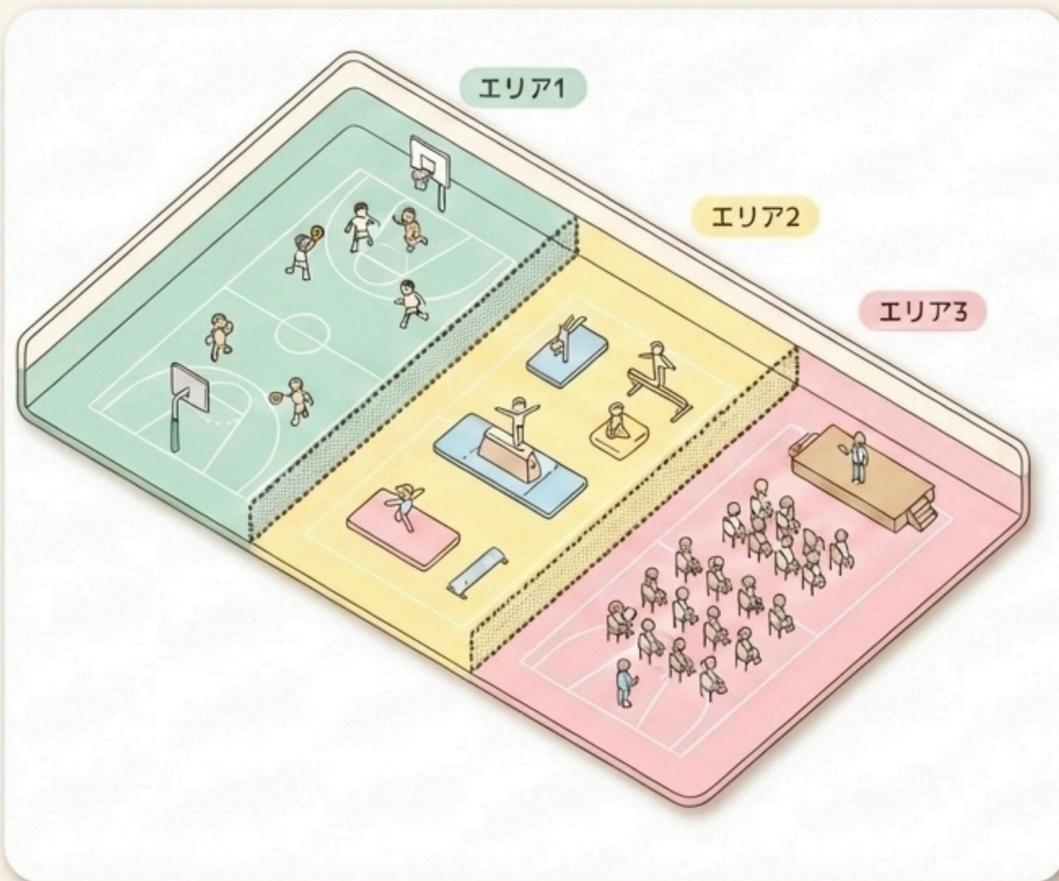


- 【1階への配置】肢体不自由を含む重複障がいのある児童の移動負担をなくすため、バリアフリーを徹底した1階へ配置

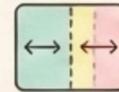


- 【将来への可変性】隣接する多目的室は、将来的に教室として転用可能な設計

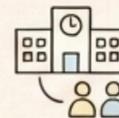
# 3分割で冷暖房完備の体育館を新設



## 大規模校ならではの課題を 解決する、広くて使いやすい 新しい体育館



- **【3分割利用が可能】** 複数のクラスが同時に体育の授業を行えるよう、十分な広さを確保し、ネット等で3つのエリアに分割可能



- **【小中連携】** 隣接する中学校との施設共有や、合同行事も見据えた余裕のある設計



- **【地域利用との両立】** 放課後や休日のスポーツ少年団など、地域の方々も利用しやすい動線と設備

※詳細は設計業務で精査いたします

# 安心・安全の確保：防災・防犯計画

## 児童を守る「防犯計画」



- 学校エリア（児童専用）と地域開放エリア（体育館等）の【明確なゾーニング】



- 不審者の侵入を防ぐ門扉の配置と、死角をなくす見通しの良い配置計画

## 命を守る「防災拠点」



- 災害時、地域の皆様の頼れる「避難所」としての機能を完備



- 備蓄倉庫の適切な配置や、非常用電源・給水設備の確保



- 中学校と連携し、より大規模な災害にも対応できる地域防災ネットワークの核へ

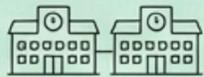
# 地球にやさしい学校（環境配慮・ZEB）



石岡市のゼロカーボンシティ宣言と連動。校舎そのものが、子どもたちにとって『脱炭素』を学ぶ生きた教科書になります。

# まとめ：空間が「新しい学び」と「心」を育む

## 物理的空間



施設隣接型配置



ラーニングコモンズ



DEN・ゆとりある教室



1階集約型の特別支援学級



ZEB Readyと防災拠点



## 教育的・心理的成果



中1ギャップ解消・9年間の絆



自ら調べ、共に考える力の育成



小1プロブレム低減・安心できる居場所



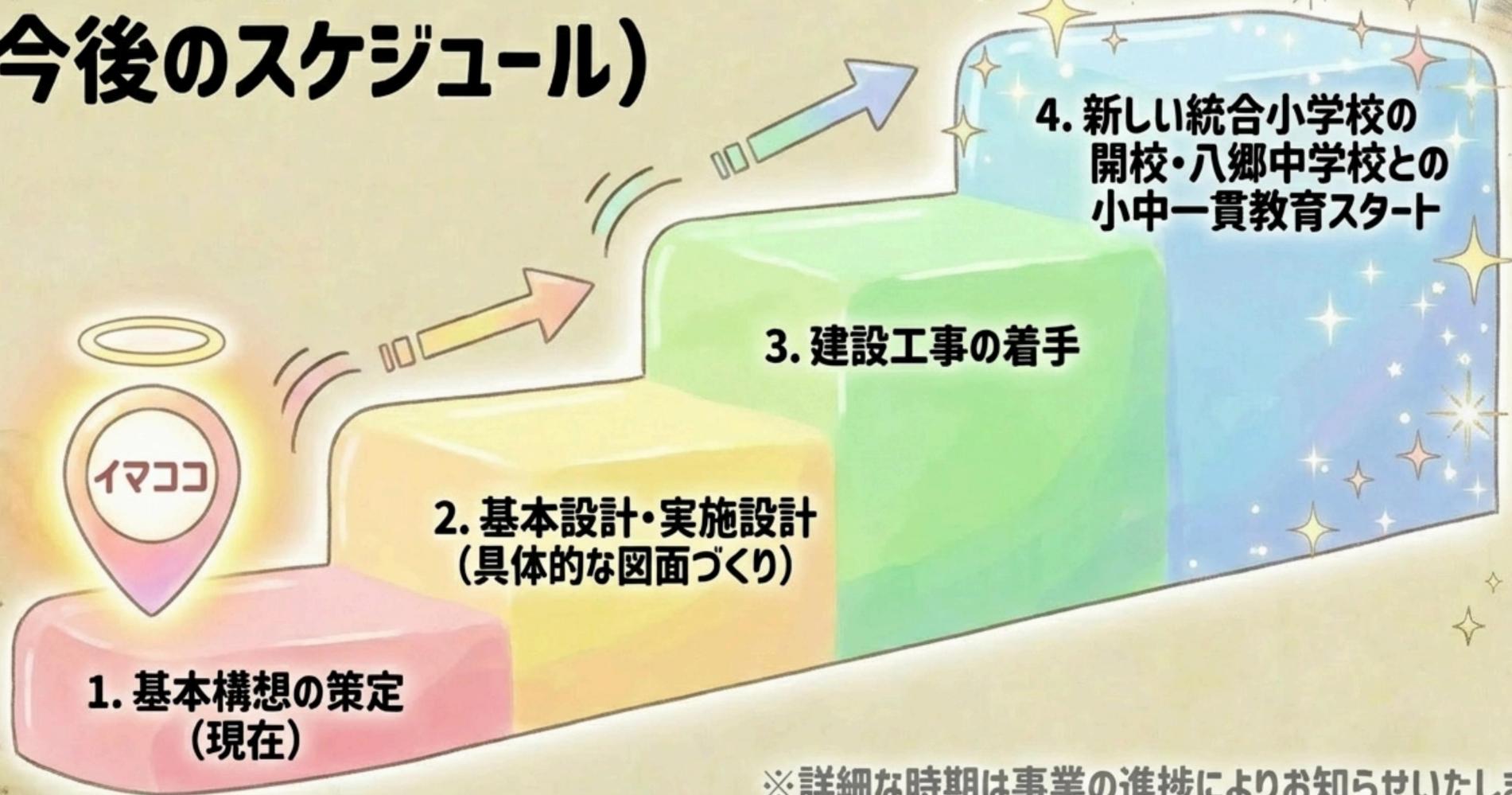
誰もが混ざり合えるインクルーシブな心



地域と地球の未来を守る当事者意識

統合は単なる「建物の合体」ではなく、  
八郷の子どもたちの「生きる力」を飛躍させる最大のチャンスです。

# 新しい学校ができるまで (今後のスケジュール)



※詳細な時期は事業の進捗によりお知らせいたします。

## むすびに

本基本構想は、8つの小学校が紡いできた大切な歴史と地域の想いを土台にしています。  
ここから始まるのは、単なる建物の建設ではなく、八郷地区の子どもたちの「未来のキャンパス」を描くプロジェクトです。

# 子どもたちが毎日笑顔で通い、地域が誇りに思える 「明日また行きたい学校」

の実現に向けて、設計・整備を進めてまいります。

